

2013年3月26日

## 九州新幹線全通2年後の利用状況調査

株式会社 鹿児島経済研究所

### 【調査結果の要点】

#### ●居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は50.9%で、本県居住者の利用割合49.1%をわずかに上回った(図表1)。他県居住者の割合は1年前調査(2012年3月)の56.7%から5.8<sup>ポイント</sup>減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は10.1%となっており、1年前調査の11.8%から減少した。

#### ●利用目的

- ・ 他県居住者の利用目的は「ビジネス」が34.9%と最も多く、3月調査では全通以降初めて「観光・レジャー(32.1%)」を上回った(図表3)。一方で山陽新幹線沿線だけをみると、「観光・レジャー」が41.2%と最も多かった(図表10)。

#### ●利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」は1年前調査より減少し、利用頻度が高まっていることが浮き彫りとなった(図表5)。特に本県居住者は「複数回利用」の割合が1年前調査から14.1<sup>ポイント</sup>減少する一方で、「定期的に利用」「ほぼ毎日利用」の合計が16.2<sup>ポイント</sup>増加している。

#### ●日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊は86.6%と、全通以来高い水準で推移している(図表7)。一方で、「ビジネス」での日帰りは39.7%となり、全通以来、ウエートが高まっている。

---

株式会社 鹿児島経済研究所

## 【調査概要】

### ■ 調査目的

本調査は九州新幹線の利用状況を把握し、今後の観光振興などに生かしてもらうことを狙いに毎年3月に実施している。全通から2年が経過した時点で、九州新幹線の利用状況にどのような変化が起こっているか調査し、県内企業の事業活動などに役立ててもらうことを目的とした（3月調査としては9回目）。

### ■ 調査実施日

2013年3月6日（水）、8日（金）、9日（土）、10日（日）  
の4日間、9：00～10：30、14：00～15：30、18：30～20：00の  
各時間帯

■ 調査場所 鹿児島中央駅の新幹線改札内コンコース

■ 調査対象 調査期間中の九州新幹線乗降客から無作為抽出

■ 有効回答 1,793件

■ 調査方法 面接による直接聞き取り

## 【調査結果】

### 1. 居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は50.9%で、本県居住者の利用割合の49.1%をわずかに上回った（図表1）。他県居住者の割合は1年前調査（12年3月）の56.7%から5.8<sup>ポイント</sup>減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は10.1%となっており、1年前調査の11.8%から減少した。
- ・ 本県居住者の目的地をみると、県外が6割を超えている。県外のうち、九州外の割合が11.4%となっており、そのうち山陽新幹線沿線は8.0%だった（図表2）。

### 2. 利用目的

- ・ 利用目的別にみると、調査対象全体では「ビジネス」が31.6%と最も多く、次いで「観光・レジャー（24.8%）」となった（図表3）。
- ・ 本県居住者の利用も「ビジネス」の割合が28.3%と最も高く、次いで「観光・レジャー（17.3%）」「通勤・通学（16.5%）」となった。
- ・ 他県居住者の利用目的は「ビジネス」が34.9%と最も多く、「観光・レジャー（32.1%）」を上回った。全通以降、他県居住者の「観光・レジャー」での利用割合は減少傾向にある。一方で、山陽新幹線沿線については「観光・レジャー」が41.2%と最も多くなっている（図表10）。

- ・ 本県居住者の利用目的を移動別にみると、県内移動では「通勤・通学」が 40.4%と最も多い（図表 4）。次いで「ビジネス（12.3%）」「買い物（11.1%）」となっている。「その他」も 20.4%となっており、「冠婚葬祭」や「通院」、「親戚・友人に会う」など利用目的も幅広い。県外移動では「ビジネス」が 38.9%と 1 年前調査から 3.7<sup>ポイント</sup>増加した一方で、「観光・レジャー」は 22.1%と 3.8<sup>ポイント</sup>減少した。

### 3. 利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」とした割合は 1 年前調査より減少し、利用頻度が高まっていることが浮き彫りとなった（図表 5）。
- ・ また、本県居住者の利用頻度を移動別にみると、県内移動においては「ほぼ毎日」が 43.1%と最も多く、従来の調査結果と同様に、九州新幹線は通勤・通学など日常の移動手段として定着していることが一段と鮮明になった（図表 6）。

### 4. 他県居住者の日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊の割合は 86.6%と全通以来、高い水準で推移している。一方で、日帰りは 7.9%となっている（図表 7）。
- ・ 「ビジネス」での日帰りは 39.7%となり、全通以来、ウエートが高まっている半面、有料宿泊は 55.2%と減少傾向にある。

### 5. 他県居住者の本県における消費額

- ・ 他県居住者の本県における消費額は、合計で 2 万 7,087 円だった（図表 8）。利用目的別にみると、「ビジネス」では 1 万 8,254 円、「観光・レジャー」では 4 万 298 円となっており、観光客の消費額はビジネス客の消費額の 2 倍強となっている。

### 6. 鹿児島を訪れた回数

- ・ 他県居住者の来鹿回数は、「5 回以上」が 64.1%と 6 割を超え、「初めて」は 15.3%となった（図表 9）。
- ・ 利用目的別にみると、「ビジネス」では「初めて」が 9.7%と 1 年前調査の 9.6%から 0.1<sup>ポイント</sup>増加、「観光・レジャー」では「初めて」が 32.0%と 1 年前調査の 44.4%から 12.4<sup>ポイント</sup>減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線をみると、過半数（51.4%）が「5 回以上」鹿児島を訪れたと答えており、全通を機に当該地区との往来が活発になっている様子がうかがえる（図表 10）。

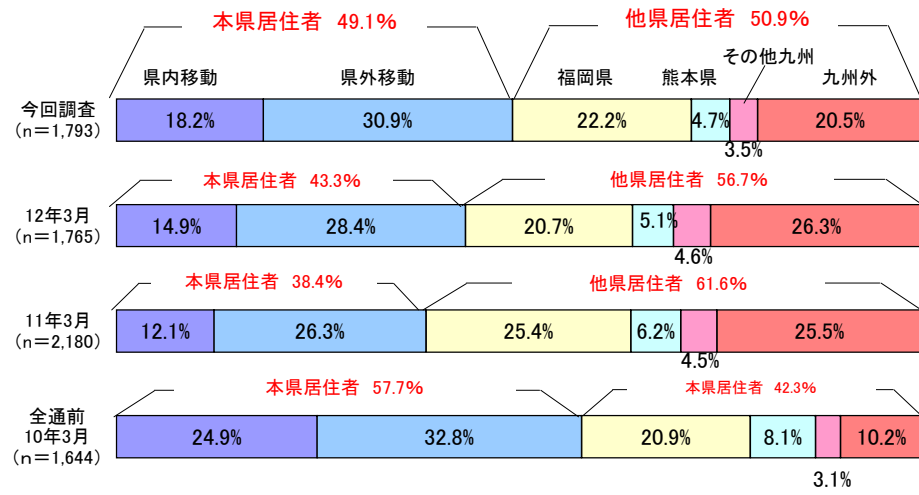
## 7. 県外観光客へのアンケート

- ・ 目的地は「鹿児島市（58.7%）」が最も多く、「指宿（50.7%）」「霧島（17.5%）」「種子屋久（4.2%）」「知覧（3.8%）」と続く（図表 11）。また、目的地を「鹿児島市」と回答した観光客の半数以上が桜島（53.6%）、天文館（52.6%）を訪れている（図表 12）。
- ・ 観光目的は「温泉」が 64.1%と最も多く、次いで「自然・景観（42.5%）」「料理・グルメ（23.4%）」となっている（図表 13）。
- ・ 情報収集手段は「インターネット（39.9%）」の利用割合が最も高く、「旅行代理店（32.5%）」「市販のガイドブック（16.0%）」が続く（図表 14）。
- ・ 県外観光客の二次交通手段は「在来線」の利用割合が 33.1%と最も高く、次いで「タクシー（28.5%）」「路線バス（26.7%）」「レンタカー（24.4%）」の順となっている（図表 15）。
- ・ 来鹿の動機は「知人からの口コミ（26.0%）」が最も多く、次いで「旅行代理店」「インターネット（スマホ含む）」（ともに 12.0%）、「テレビ・ラジオ（10.0%）」が続く（図表 16）。また、その他の意見として「暖かいところに行きたかった」「砂蒸し風呂を体験してみたかった」「九州新幹線に乗ってみたかった」などがあげられた。
- ・ 自由意見として「食べ物がおいしい」「景色がすばらしい」「鹿児島市内がコンパクトで観光しやすかった」など鹿児島の食や観光資源、観光施設を評価する声は従来の調査同様、多かった。
- ・ また、「自動車がないと不便」などと二次交通手段に対する声は依然として聞かれた。

以上

【本件に関するお問い合わせ】 経済調査部（TEL 099-225-7491）

図表1 居住地別利用者割合



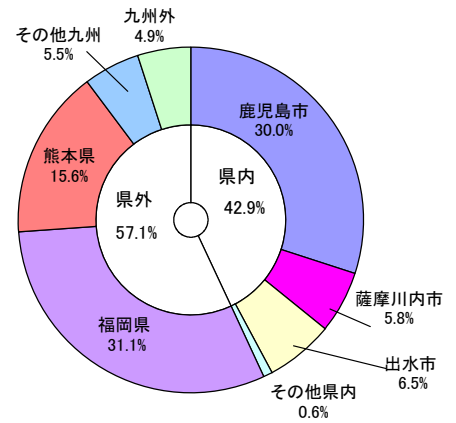
※山陽新幹線沿線居住者の利用割合 (単位:%)

	10年3月	11年3月	12年3月	今回
山口県	0.5	1.3	1.2	1.0
広島県	1.1	4.1	3.3	3.0
岡山県	0.3	1.6	1.8	1.1
兵庫県	0.4	2.9	1.5	2.1
大阪府	1.0	3.8	4.0	2.9
5府県計	3.3	13.7	11.8	10.1

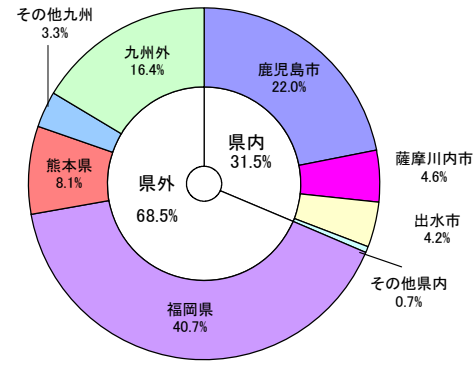
※目的地(山陽新幹線沿線) (単位:%)

	11年3月	12年3月	今回
山口県	0.9	1.8	0.5
広島県	2.7	3.0	3.6
岡山県	1.6	0.9	0.8
兵庫県	2.3	1.3	0.7
大阪府	5.1	2.6	2.4
5府県計	12.6	9.6	8.0

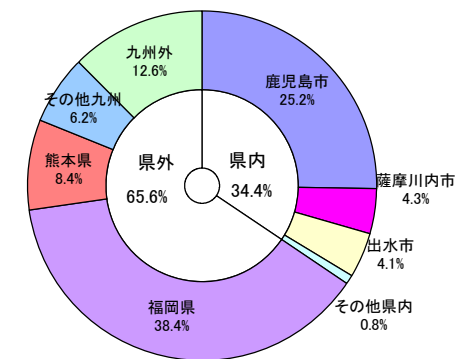
図表2 本県居住者の目的地  
【全通前10年3月】



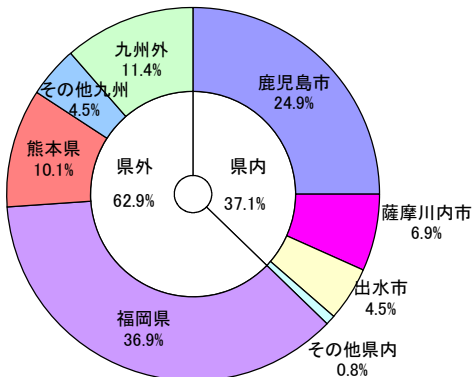
【11年3月】



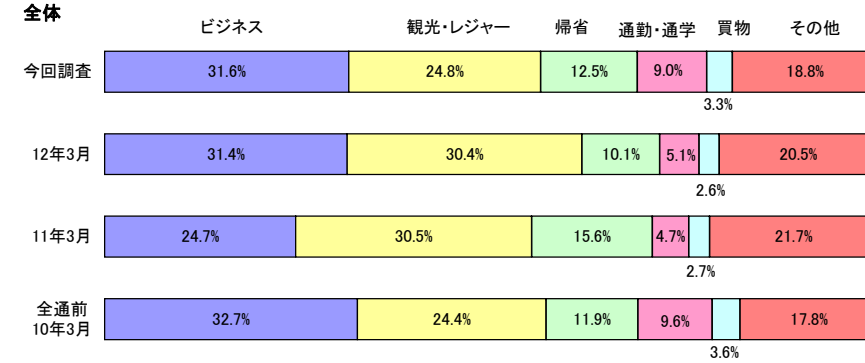
【12年3月】



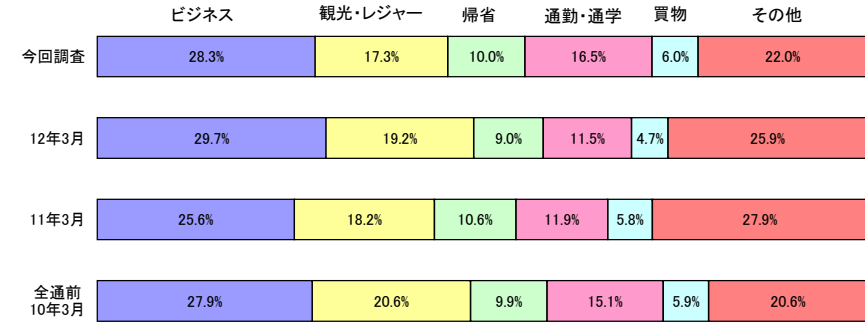
【今回調査】



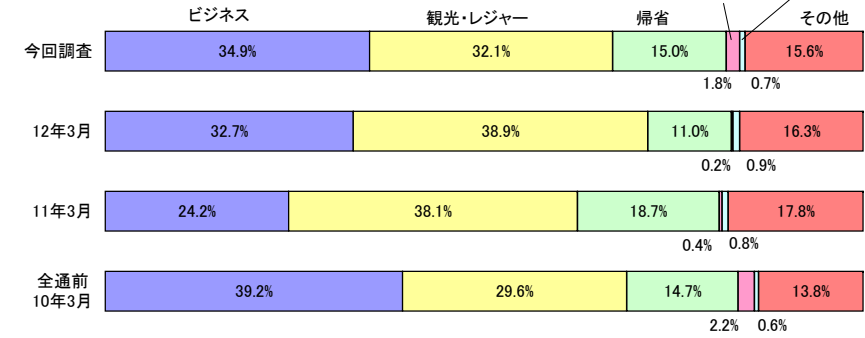
図表3 新幹線利用者の利用目的



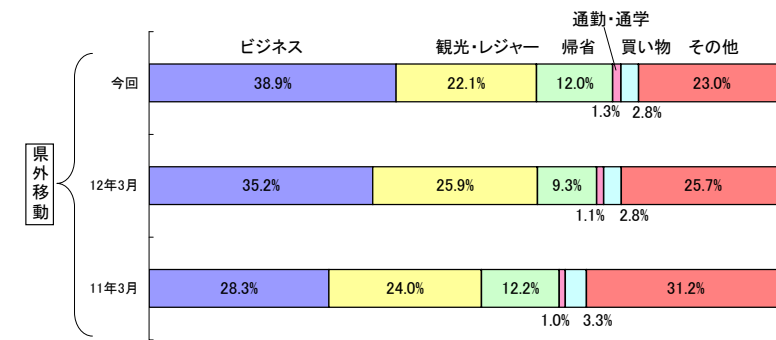
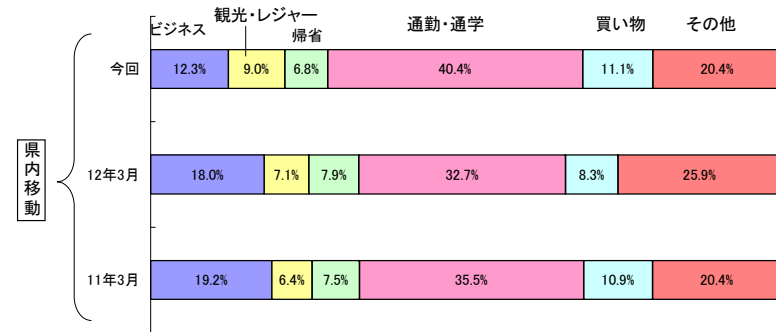
本県居住者



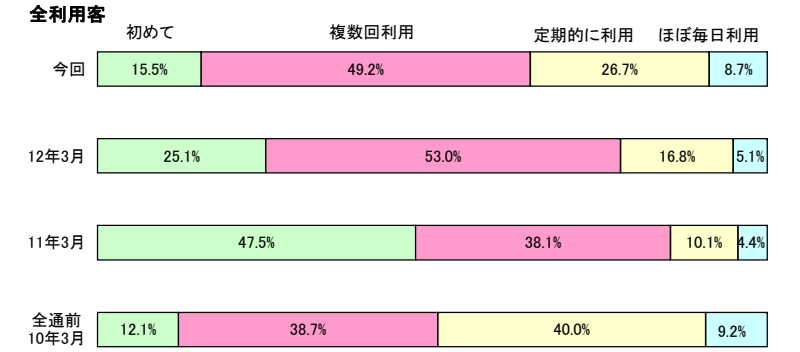
他県居住者



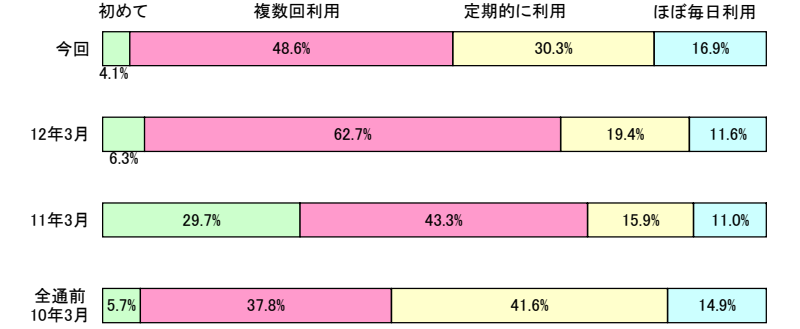
図表4 本県居住者の移動別利用目的



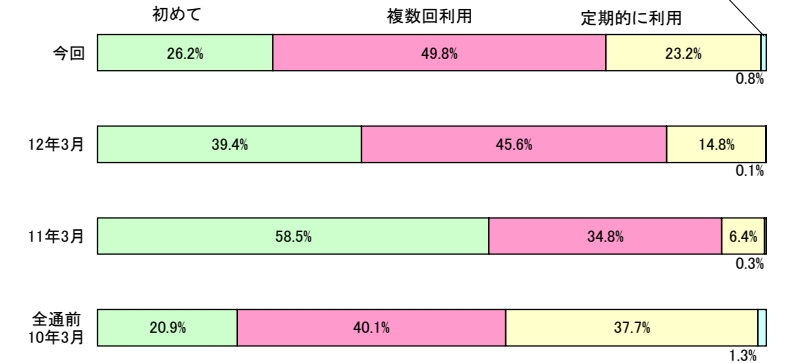
図表5 新幹線利用者の利用頻度



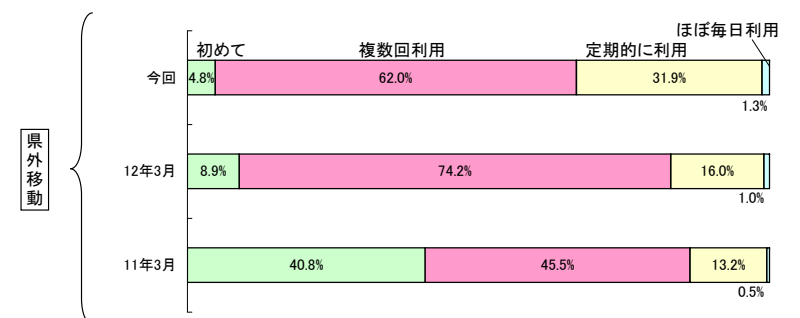
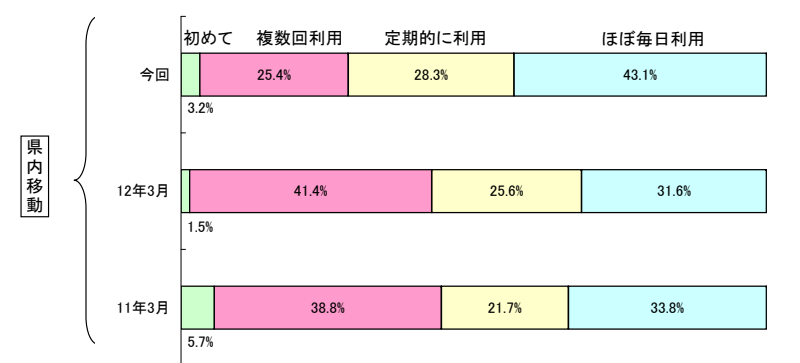
本県居住者



他県居住者



図表6 本県居住者の移動別利用頻度



図表7 他県居住者の日帰り・宿泊状況(利用目的別)

	有料宿泊				日帰り			
	10年3月	11年3月	12年3月	今回	10年3月	11年3月	12年3月	今回
全体	52.5%	56.3%	61.8%	54.1%	26.6%	20.5%	21.9%	24.5%
観光・レジャー	70.9%	81.0%	87.8%	86.6%	25.2%	16.5%	10.1%	7.9%
ビジネス	67.3%	66.3%	63.3%	55.2%	29.8%	31.3%	33.0%	39.7%

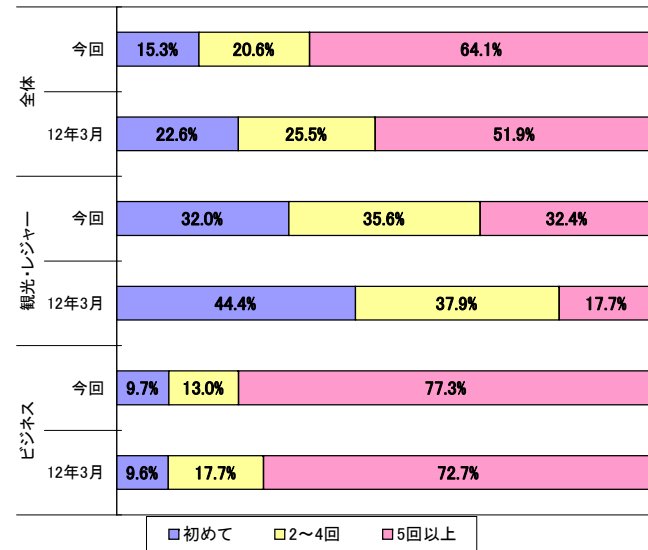
図表8 他県居住者の本県における消費額(利用目的別)

(単位:円)

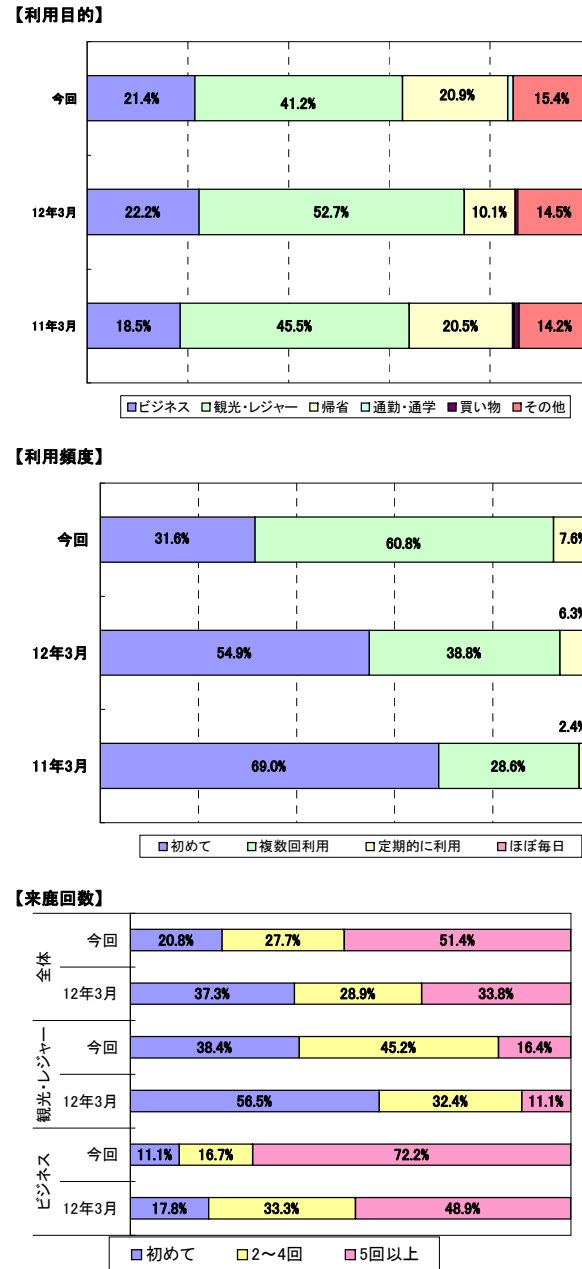
	宿泊費	お土産・買い物費	飲食費	交通費	合計消費額
全体	9,279 (10,091)	6,082 (6,268)	7,713 (5,989)	4,012 (5,283)	27,087 (27,631)
観光・レジャー	15,409 (16,337)	9,948 (9,887)	8,912 (6,372)	6,030 (8,106)	40,298 (40,702)
ビジネス	6,587 (6,870)	1,995 (2,517)	7,244 (6,361)	2,428 (4,166)	18,254 (19,914)

注1) 下段の( )内の金額は12年3月調査時の金額。  
 注2) バック旅行の場合、バック料金に占める宿泊費を35%として試算。  
 注3) 交通費は新幹線料金を除く。

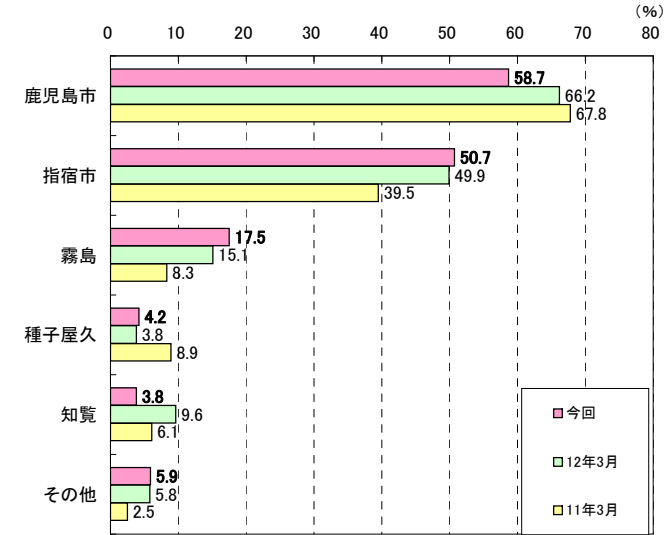
図表9 他県居住者の来鹿回数



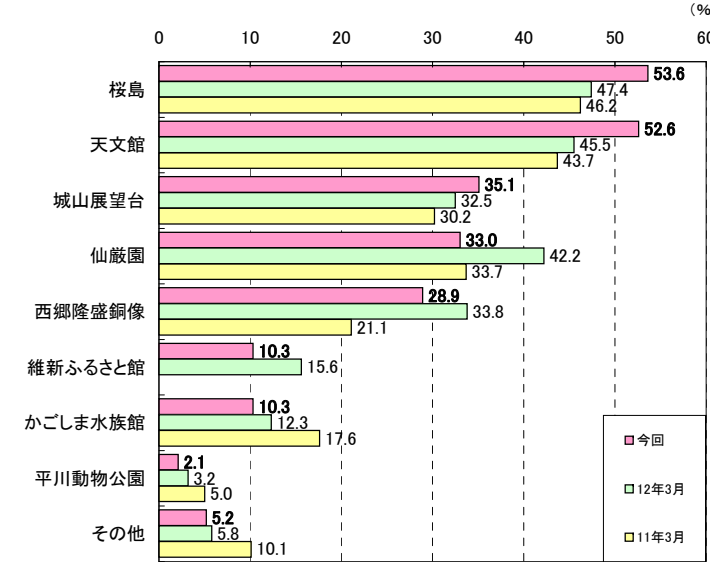
図表10 山陽新幹線沿線居住者の利用目的、利用頻度、来鹿回数



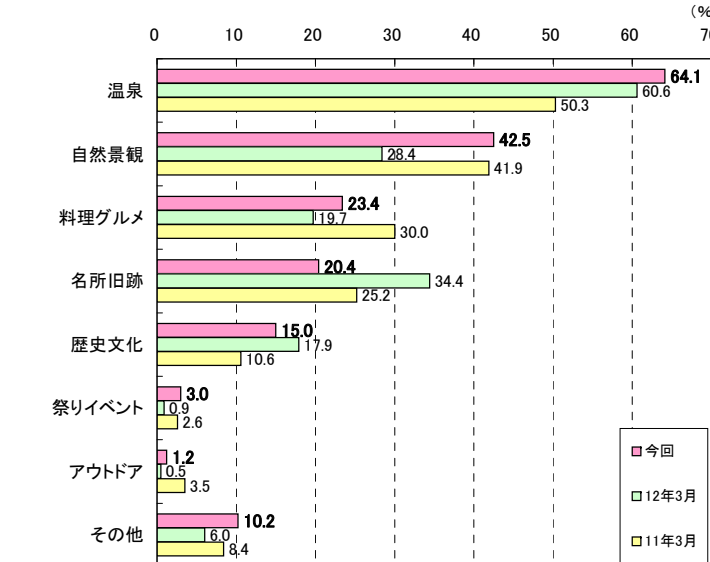
図表11 県外観光客の目的地(複数回答)



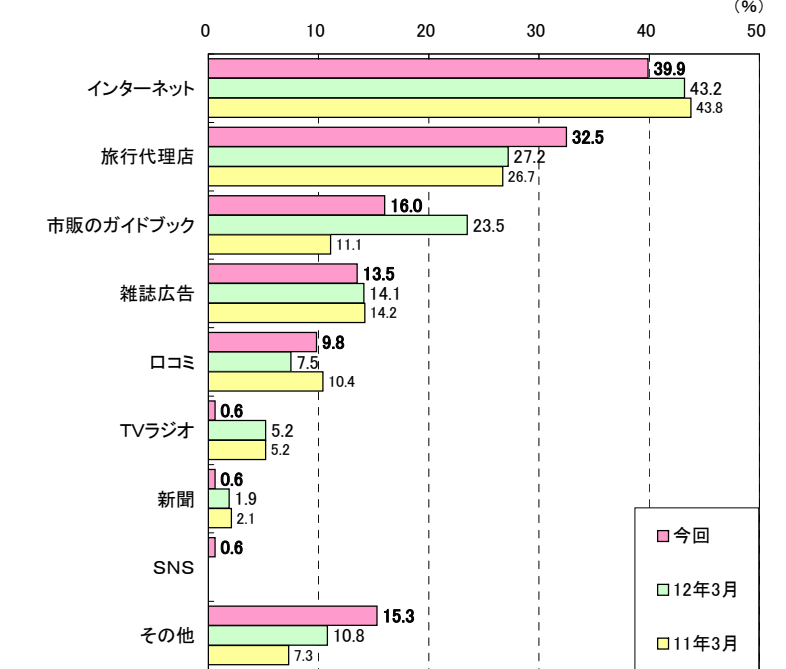
図表12 鹿児島市内を訪れた県外観光客の目的地(複数回答)



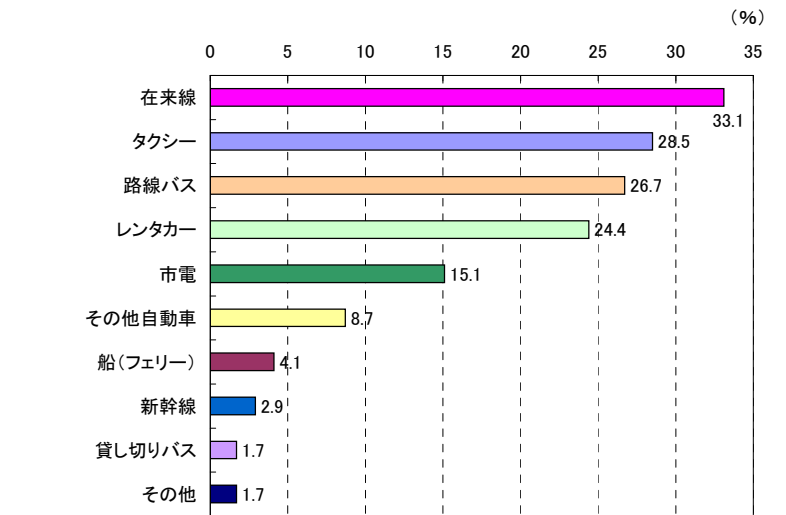
図表13 県外観光客の観光目的(複数回答)



図表14 県外観光客の情報収集手段(複数回答)



図表15 県外観光客の二次交通手段(複数回答)



図表16 初回来鹿者(観光・レジャー)の動機(複数回答)

